

映画『ハッピーアワー』によるハッピーな時間  
―日文研創立三〇周年記念イベント報告

北 浦 寛 之

二〇一七年五月二六日に日文研の創立三〇周年記念イベントの一環として「映画『ハッピーアワー』上映&監督・主演女優トーク」を京都造形芸術大学構内の京都芸術劇場春秋座で開催し、四〇〇人以上の来場者を集めた。本イベントを企画した立場から、企画の背景やイベント当日の様子、そして映画そのものについて、報告しておきたい。

創立三〇周年記念事業のひとつを映画でやると決まったとき、ほぼ瞬間的にこの映画のことが頭に浮かんだ。三〇周年という特別な舞台に、特別感を生み出せる作品であると考えたからだ。『ハッピーアワー』は濱口竜介監督による、二〇一五年公開の映画である。濱口監督は、この映画で芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞し、主演の田中幸恵・菊池葉月・三原麻衣子・川村りらの四人はロカルノ国際映画祭にて最優秀女優賞に輝いた。他にも国内外の映画祭等で数多くの受賞を重ね、映画ファンならよく知る近年の話題作である。



京都芸術劇場春秋座の客席の様子



濱口監督の挨拶

とはいえ、こうした受賞歴に目を奪われて、この映画を三〇周年イベントで掛けようと判断したわけではない。実際に、私が近年観た映画の中で、もっとも衝撃を受けた作品であり、目を奪われたのは、やはり『ハッピーアワー』という映画自体の力にほかならない。驚くべきことに、主演四人は役者としての実績を持ち合わせておらず、演技未経験である。彼女たち以外の演者たちも、十分な演技経験がないという。出演者は総じて、濱口監督とスタッフが神戸で開催したワークショップの参加者というだけで一般的には無名であるが、にもかかわらず、画面に映る人物たちは鑑賞に堪える十分な存在感を発揮している。

『ハッピーアワー』は、三〇代後半の四人の女性たちの日常を、じつに五時間一七分という大長編で、文字どおり丁寧に描き出す。ただ、この上映時間のほとんどが「ハッピーアワー」であることはない。むしろ、彼女たちそれぞれが、ハッピーではない問題を抱えているか、抱えることになる、その状況に戸惑い苦悩し、葛藤することに物語の力点が置かれている。各自の問題は、恋愛以前の男女関係や、夫婦関係、そしてそこに子どもが絡んだ家族間の話へと及ぶ。さらに、個人の問題が、四人の絆にも影響を及ぼす事態となる。

そこから、果たして彼女たちは真の幸福を見つけ出すことができるのか、といった、青春映画のような気配をこの映画は醸し出すことはない。ただ静かに、じつくりと、カメラは心のバランスを崩した彼女たちを見つめ、その状況を彼女たちがいかに立て直すのか、そしてその先にハッピーだと思える時間がやって来るのかに、観る者の関心を誘っていく。彼女たちの言動は、生々しく伝わり、われわれの日常のどこかで起きている話として迫ってくる臨場感を与えるのである。

映画上映終了後に、濱口監督と主演の田中さん・菊池さん、日文研の細川教授が参加して、私が聞き手となってトークを行った。おもしろかったのは、臨場感のある、まるで現実の地続きのように見える映画だが、それはリアルを追い求めた結果で達成されたわけではないことである。その最たる例が、事前に行われたセリフの本読みである。出演者は撮影前に、シナリオを見ながらセリフを読み、そして覚える。ただその際、ニュアンスを抜いた感情のない言わば「ゼロ度」の声で読むことが求められた。その状態で、監督は聞きやすくと感じる声の基準音を見つけていく。本番の撮影では、その本読みの声をベースとして、ニュアンスを無理に削ぎ落とすというとは意識せずに、発話してもらうという演



トークイベントの様子

(右から濱口監督、田中さん、菊池さん、細川教授、北浦)

出が行われた。

なるほど、映画を思い返せば、登場人物のセリフの言い回しは、どこかリアルな自然な発話というよりは、システムティックな雰囲気を感じられた。登場人物たちの声が、ある種人工的に映画の空気感を統一させる役割を担っているのである。トーク終盤に設けた客席からの質問タイムでは、関連する話題で日本映画の巨匠・小津安二郎の名前を口にする人もいた。つまり、小津映画のセリフに感じる不自然さが、『ハッピーアワー』の人物たちのセリフに通じるというのである。

こうした壇上と客席との交流も手伝って、トークは予定の時間を超過して盛り上がりを見せた。登壇ゲスト以外にも『ハッピーアワー』の多くのスタッフ・出演者が会場に駆けつけてくれていて、最後には、壇上で一人ひとり挨拶してもらったサプライズの展開になった。日文研の創立三〇周年記念イベントは、こうして『ハッピーアワー』スタッフ・出演者と、立派な環境を提供してもらった春秋座関係者の協力もあり、大成功で終えることができた。ここであらためて感謝申し上げる。

(国際日本文化研究センター助教)